

## 宝が池の森の特性が生きる森の管理

京都府立大学 田中和博

### 1. 土地と空間の違い

都会では、土地は空間と見なされており、お金をかけることによって、目的にかなった利用空間に改造される。しかし、農地や森林、自然空間では、そこまで、お金をかけることができない。したがって、それぞれの土地の条件にあわせて、土地の利用形態を考えることになる。

### 2. 空間解析ツール GIS

地理情報システム（Geographic Information System）は、地図と帳簿を一元的に管理することができるデータベースであるが、オーバーレイなどの空間解析機能も持っている。GISでは、主題図ごとに情報を管理する。

### 3. エコトープ（ecotope）

景観生態学の概念であって、地形、土壌、植生などの要素が均一であると見なせる区域のこと。景観を構成する基本単位。GISを使った景観生態学的解析では、標高区分図、土壌区分図などの主題図を、オーバーレイした時にできる区画の最小単位をエコトープと見なしている。出現頻度が低いエコトープは、代替性が低く、その環境条件に固有な希少な生物が生息している可能性がある。

### 4. エコトープによる適地適木の判定

エコトープの応用事例としては、京都市三山森林景観保全・再生ガイドラインがある。立地類型を構成する指標として用いたのは、①表層地質、②地形の凹凸、③堆積区分、④斜面勾配（傾斜）、⑤表層土粒径の5種類

### 5. 植生遷移

自然の推移に任せていくと、やがて、陰樹が多くなる。どの段階で、植生遷移を止めて、森林を管理するのが、今後の課題。市民の多くは、生態系の大切さを知っているが、植生遷移のことはあまり知られていない。木を伐採することは「悪」と誤解している人が多い。無法状態では弱肉強食の世界になり、特定の樹種が寡占する。シイ林化、ソヨゴ林化、ナンキンハゼ化など。

### 6. 宝が池におけるソヨゴ林化の調査研究

粘土の多い尾根筋でアカマツ－モチツツジ林が枯れてしまうと、ほぼ確実に亜高木性樹種であるソヨゴ林となっていく。アカマツ林からソヨゴ林への遷移は、典型的な退行遷移である。ソヨゴはマットのように広く枝を這わせて（匍匐層）そこから幹を伸ばし始める性質があり、一斉林をつくりやすい性質をもっている。このため、一旦、ソヨゴ林が出来上がると林床は暗く他種の侵入を困難とさせるため、長くこの群落が続いていく。研究の結果、ソヨゴは、凸部、残積土、シルト質に生育する傾向が見受けられた。

### 7. まとめ

まずは、宝が池の森の現状を知ることが重要である。森の変化をモニタリングすることによって、森の変化の流れを読み、より望ましい状態へと、森の変化の流れを変える必要がある。森のしくみを知り、森育てを始めましょう。